

**令和7年度「高等学校課題発見・解決学習推進プロジェクト」に係る
未来を生き抜くためのエージェンシー育成プログラム委託業務
公募型プロポーザル選定委員会議事録（議事要旨）**

項 目		内 容
1	日 時	令和7年6月9日（月）13時30分から16時50分まで
2	場 所	Zoomによるオンライン実施
3	出席委員	広島県教育委員会事務局学びの変革推進部 高校教育指導課長 広島県教育委員会事務局管理部 総務課長 地域政策局 平和推進プロジェクト・チーム担当課長 広島県教育委員会事務局学びの変革推進部 義務教育指導課長 広島県教育委員会事務局学びの変革推進部 個別最適な学び担当課長
4	議 題	プレゼンテーション審査
5	担当部署	広島県教育委員会事務局学びの変革推進部高校教育指導課
6	開催方法	オンライン
7	議事内容	1 審査方法 提案された企画提案書を基にプレゼンテーションを行い、選定委員会において審査の上、最も得点が上位の提案者を最優秀提案者として選定した。 2 審査結果 (1) 審査対象者 ① 株式会社JTB 広島支店 ② 東武トップツアーズ株式会社 広島支店 ③ 株式会社Study Valley ④ 株式会社ミエタ (2) 審査対象者の評価値 審査対象者の評価値については、別紙「公募型プロポーザル結果一覧」及び「評価基準に基づく評価項目別の総合値」のとおり。 (3) 最優秀提案者及び選定理由 ア 最優秀提案者：株式会社ミエタ イ 選定理由： ・プログラムにおいて、各グループが目指す達成目標がレベル1からレベル3まで記述されており、その達成に向けて効果的に学習活動が行われるよう具体的な計画案が設定されている点は評価できる。 ・エージェンシーの育成やモデルケースの創出等、事業目的について十分に理解しており、探究学習についても十分な業務実績がある。

	・実績が多数あり、県の目的に沿った事業実施が期待できる。また、生徒の探究学習のみならず、学習の成果を実際の行動に結び付ける目標設定や評価手法が評価できる。 ・探究学習に係る実績があり、業務遂行能力はあると考える。キャリアワークを通じた興味等の抽出には独自性がある。 ・社会行動の挑戦について、短期・中期・長期とスパンを意識して設定していることは他にはない取組である。また、メンターの配置、フロントランナーや有識者の招聘についても具体化できており、生徒の支援体制も厚い。プログラムを通じて身に付けたい資質・能力も明確化しているほか、県内の他の高等学校への導入に向けた発信についても「HIROSHIMA 平和×探究学習モデル」として、全体設計がされていることは評価できる。 (4) 非選定者及び非選定理由等 ○ 株式会社 J T B 広島支店 ・カリキュラム全体の構想やゴールが明確であり、年間の活動内容が具体的に検討されている点は評価できる。 ・高校生国際会議の後、Y 7 日本代表への政策提言プレゼンの場が設定してあり、より当事者意識がもてる提案は評価できる。 ・オンラインと対面を融合させたプログラム構成や、各班 1 ～ 2 名のメンターの配置など、生徒が主体的に探究するための伴走支援の体制は厚い。 ・探究テーマの追究、社会課題の解決方法やファシリテーション手法の習得、高校生サミットの開催、政策提言会（希望者）など内容が盛り沢山であり、他の高等学校における探究活動の一つのモデルになるかについては難しい部分もあるのではないかと捉えられる。 ・業務目的であるエージェンシーの育成について、資質の把握・評価よりも相対的に探求型学習の実施に重点を置いている印象があった。 ・類似業務の成果について、探求学習後の生徒間のつながりをアピールしているが、当該事業の目的にどのように寄与するか不明。 ・実績があり、遂行能力を有している。他方で、多様な学習者の実態を考慮したテーマ設定の手法や評価方法についての説明が弱い。 ・本業務で育成を目指す資質・能力の向上につながる取組としては、育成したい資質・能力の評価が事後アンケートということで、取組過程における生徒に対する評価やそれを踏まえた個別の支援等は曖昧である。 ○ 東武トップツアーズ株式会社 広島支店 ・プログラムに参加した生徒が、自らの資質・能力の高まりを確認できるよう、自己評価用のルーズブリックが作成されている点は評価できる。
--	--

	・エージェンシーの把握のタイミングや手法について、業務目的を踏まえた提案になっている。 ・育成したい資質・能力について、ループリックを生徒と共有し、講師やメンターから自己評価に照らし合わせてフィードバックするという提案は独自性があって評価できる。 ・育成したい資質・能力が明確で、また、エージェンシーをもった人材育成に向けて、自己評価するためのエージェンシー可視化ループリックも作成しており、成果を明確に発信できると思われる。 ・専門家（ゲストスピーカー）が大学教授など学術研究に偏る傾向が見られており、多様な価値観に触れるという面で、更に多様な講師等から学ぶ機会を設けてもらいたい。 ・探究型プログラムについて、提案者がどの程度理解の上、提案しているのか疑問が残る。 ・執行体制について、再委託契約条項に抵触する可能性がある。 ・テーマ設定や評価指標が具体的で分かりやすい。他社への委託が必須となることから、十分な実施体制を確保できるか確認する必要がある。 ・メインの部分が再委託になるため、どれだけ主導できるか不透明であり、再委託に係る要件については確認が必要。 ○ 株式会社 Study Valley ・参加生徒個々の資質・能力の向上について、グループのメンターが中心となって見取るとともに、A I フィードバック機能を活用しながらサポートする工夫が行われている点は評価できる。 ・事業目的について、エージェンシーの育成やモデル化等、深い理解の上、提案している。 ・ロジに関する実行可能性において不安材料はあるが、A I を活用するなどテーマ設定や評価手法など個別多様な状況にも対応可能な内容となっている。 ・現時点では、実施場所等、個別具体の記載がない点が若干気になる。 ・過去の実績等の具体の記載がないため、遂行能力の面でやや不安が残る。 ・具体的なプログラム内容と実施手法について、オンラインミーティングは月1回程度という記載にとどまるなど、年間を通した計画的な実施イメージが分かりづらい。 ・A I 等を支援ツールとして活用することが強調されており、独自性はあるが、メンター等、人の関わりや支援があまり伝わってこなかった。 ・プラットフォームにあるA I 機能、協働学習支援、ポートフォリオの作成等を活用することによって、人的支援が足りない部分の補完や、生徒の主体的な学びの支援につなげていこうとする提案は他にないものであるが、どのような有識者を招聘するのか、どう探究を深めていくのかというストーリーや具体が見えづらい。
--	--

		また、提案書の内容も分かりにくく、実際の探究活動の実施に当たっても、多様な高校生がスムーズに理解し、学習を進めることができるものが提供できるのか不安になる。
--	--	--